

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で、グループホームならではの家庭的な雰囲気を作り、食後のあと片付けや洗濯物たたみ、洗濯物干しを職員とともに取り組むことで、各入居者様ひとりひとり役割が持て落ち着いた生活が送れるように支援している。季節に合わせた行事を計画することで、季節を感じていただきながら楽しく穏やかな時間が過ごせるようにしています。また、入居者様ひとりひとりの思いや希望、要望を大切に可能な限り活動に取り組み個別ケアに取り組んでおり、重症化した入居者様にもこまめなコミュニケーション、触れ合うことで安心して過ごしていただけるように支援している。コロナが5類になったことから、面会も緩和しており家族と直接面会していただき、家族との絆を大切にしています。職員と家族と良好な関係を築くために面会時には少しお時間をいただき会話をしたり、入居者の日々の状態を報告することで信頼関係を築いています。医療面についても、医師や看護師と連携を図っており入居者の日々の状態を報告し、情報を共有することで健康観察、健康管理を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200420-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的な雰囲気の中で楽しみ安心感のある生活を提供します」の目標を掲げ、介護に従事している。2つのユニットは、オレンジとグリーンに分かれている。リビングでは、テレビの前の特等席で番組を観たり、ソファでうたた寝をしたりしている方がいた。塗り絵をしている方に「上手ですね。」と言葉掛けをしたら、「褒められた」と満面の笑みがこぼれていた。午後からは音楽療法士が来て、利用者は元気な声で歌い、笑顔とともにリビング全体にこだまして、響き渡っていた。医療面では、母体の病院が隣接していて、さらに訪問看護とも密に連携が取れ、安心・安全に繋がっている。夜間時に体調が急変した利用者がいて、迅速な対応ができたことにも表れている。職員は利用者のケアを第一に考えて、カンファレンスや日々の業務でも、お互いが意見を出し合っている。また、職員間で教え合うことで、個人のスキルアップにも繋がっている。施設長と副主任のコンビネーションも良く、そこから職員間の仲の良さが窺えた。職員は利用者にも自然(グリーンのイメージカラー)と接し、利用者は日々の生活の中で明るく・元気(オレンジのイメージカラー)に過っていて、利用者にも寄り添ったCOZY(ぬくもり)与えている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念、コージーの目標を心掛け、家族と協力をしながら暮らしやすい、第二の我が家と思ってもらえるように取り組んでいる。	誠和会の理念が名札の裏側に書かれていて、コージーの目標も名札の裏に入れてある。また、事務所にコージーの目標を掲示していて、いつでも振り返ることができている。新入職員には、施設長から丁寧に説明をしている。誠和会の理念にもある「職員の幸福と地域社会への貢献」を目指して、介護に従事している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川掃除に職員が参加している。コロナウイルスが流行する前は、地域のイベントに参加したり、ボランティアが来荘していた。コロナウイルスが5類になったことで、徐々に地域交流を再開するように考えている。	回覧板や近隣に住んでいる職員から地域の情報を得ている。施設横の道をブルーミンロードと名付けて、散歩をした際に、出会った方と挨拶を交わしている。年3回、地域の川掃除に職員が参加している。高校生と専門学生の実習の受け入れも再開された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生や専門学生、短大生などの学生の实習を受け入れ、学生に認知症、ケアなど持っている知識を伝え指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、コージーが行っている活動を報告し意見をいただいている。議事録も作成しており、いただいた意見を記録しサービスの向上を目指し活用している。	現在は対面で実施。民生委員、高齢者支援センター、有料老人ホームの職員、小規模多機能の職員、近隣のGHの職員が参加している。事故報告、ヒヤリハットと対策、避難訓練の実施報告、感染症対策について話合った。運営推進会議の資料はパワーポイントで作成しているので、内容が伝わりやすい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、民生委員、他グループホーム、地域包括支援センターや法人内の他事業所からの出席もあり活動報告を行っている。困ったこと、解決が難しいことがあれば、他事業者と相談し協力を得ている。	窓口は、施設長が中心。運営推進会議に担当者が参加しているので、ホームの現状は把握している。何かあれば相談して助言や指導もして頂いている。指導監査課へは、電話連絡が多く、介護保険更新時には、直接出向き、face to face の関係が形成されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会でマニュアルやケア方法の見直しを行っており、アンケートを実施し勉強会を開催することでケア方法の見直ししている。	抑制・虐待委員会では、心身に余裕を持って頂きたいとの思いから施設の所々にかかるたの標語を貼っている。勉強会ではインターネットから事例を取り上げて学びを深め、日々の介護の中で、身体拘束にあたるかどうかのグレーゾーンの確認も行っている。スピーチロックについても取り上げていて、理由を必ず言うように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会で勉強会を定期的に開催しており、職員が講師となり調べ他職員へ伝えることで、虐待についての知識が身に付けている。また、外部の研修に参加し知識の向上にも努めている。また、勉強会後にアンケートを実施し、ケアを振り返る機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している方が3名いらっしゃる。外部の研修や法人内にある地域包括支援センターへ問い合わせを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書、重要事項説明書を使用し説明を行っており、契約書や重要事項説明書の変更があればその都度説明を行い理解を得たうえで変更している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、コージーの活動報告を行い、そこで出た意見を取り入れ活動を行っている。家族には、毎月生活の様子をお便りと電話で報告をおこない、意見や要望を聞きケアにつなげている。	面会は感染症対策をした上で、面談室で対面で実施できている。平均して、月1～2回の来訪がある。毎月、家族には個人の写真を添付したお便りと担当職員がメッセージを添えているので、生活の様子がわかりやすいと好評の声を頂いている。また、誕生日の月には、号外の発行もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	両ユニット毎月チーム会を開催しており、業務や入居者について話し合いを行っている。また、当日出席できない職員に対して、事前に意見を聴き取り反映させている。他に適宜意見を言える雰囲気づくりを心掛けている。	毎月各ユニット会議を開催し、業務内容や利用者のケアに対する意見が多く飛び交っている。施設長や副主任は、何でも意見が言いやすい雰囲気作り努めている。各ユニットにリーダーがいて、リーダーが意見を吸い上げて、施設長に報告することもある。勤続年数が長い職員も多く、職員間のコミュニケーションも取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回面談を行っている。面談時には仕事に対する姿勢を評価したり、悩み事や相談にのりモチベーションが上がるようにフォローしている。また、有休の消化や希望休など要望をできる限りきき働きやすい環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には、先輩職員1名つき指導を行っている。他の職員も早く慣れるようにフォローを行っている。内外部の研修にも参加し、そこで得た知識が生かせるように日々の仕事に取り入れ、参考になった研修はコースのない勉強会で披露する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類になったことから、法人内の研修が再開となり内外部の研修に参加している。研修に参加することで他施設と交流を図り情報交換を行っている。また、研修参加後には他職員へ資料提供し報告を行っている。 運営推進会議で、互いの施設を訪問し活動内容の情報交換も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活からコミュニケーションを図っており信頼関係は築けている。サービスを提供する際には、丁寧に説明を行い、理解が難しい時には都度説明を行い提供し、本人に寄り添ったケアを行い安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、コースでの1日の生活の流れを説明するとともに、ご家族様の要望を聞き取りサービスに取り組むようにしており、面会の際には入居後の生活の様子を報告することで信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、入居前の他施設や病院から事前に情報を聞き取り、本人や家族に必要なサービスを職員と共有しミーティングを行い現状に最適なケアが行えるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を送る中で必要な洗い物、洗濯物干し・たたみなどの家事活動を職員とともに行うことで、ともに支えあう関係性を築き生活を送っていただいている。高齢化や重度化してきているが、生活の共同者として状態にあったケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に一回は、本人の1ヶ月の様子を報告し、生活に対する不安の軽減につとめ、気になる事、要望をお聞きしケアに取り組んでいる。また、コロナが5類になったことから直接の面会を再開し、触れ合う機会が増えたことで絆の再構築を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が可能になったことで、友人が面会に来てくれるようになり、ゆっくり会話をし関係性が継続できるように面談室を開放している。今後は、外出や外食など徐々に機会を増やし連絡調整を行っている。	面会は感染症対策をした上で、面談室で対面を実施できている。家族や孫だけでなく、昔の職場の方や、昔馴染みの友人の訪問もあり、久々の再開に相手の名前を呼び、目には涙を浮かべていた。TVの前の席が馴染みの場所となっていて、利用者は落ち着いて過ごしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、朝の体操や活動を行っている。活動をする際にはみんな同じ場所に集まり取り組んでいる。入居者個人同士交流を図る事は難しいが、職員を通じて入居者同士コミュニケーションが図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コーギーから同法人内施設へ退居された方の様子をみに面会に行くなど関係性が希薄にならないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの方は遠慮がちの方が多いため、普段のコミュニケーションより本人が望んでいること、思いをくみ取りケアにとり入れている。また、意思表示がうまく行えない方に関しては、ご家族の意向や生活歴から思いをくみ取っている。	入居時には、フェイスシートにて、生活歴や趣味を確認している。魚や肉が嫌いだと聞いていたが、施設では美味しく召し上がっていた。毎月の心身の様子を項目別に分けて記録し、家族に報告・確認して頂いている。年中「焼き芋が食べたい」と言う利用者へは、家族と連携して、焼き芋を手に入れた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様にフェイスシートの記入、会話の中での聞き取り、本人との会話の中からどのように生活を送ってきたのか収集して把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、入居者1人1人カルテを記入しており、急変やいつもと違うことがあればその都度カルテ記入を行い、また、毎月1回チーム会を実施し入居者について話し合いを行い書面で残し、職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活歴から本人の観察、コミュニケーションからどうしてほしいのか、何を望んでいるのかをくみ取り、ご家族様にはカンファレンスを通じて意見や要望を把握し、医師や看護師の助言を取り入れたケアプランを作成している。	心身の情報シートを活用し、思いや意向を確認して、ケアプランに反映させている。ケアプラン更新時や見直しの際には、サービス担当者会議を開催し、アセスメントシートを参考にし、職員の意見を集約している。モニタリングは毎月実施し、担当職員と計画作成担当者が評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランのサービスが実施されているかやモニタリングシートへ記入している。ケアプラン更新時には、半年の評価を行い、ケアプラン完成時には、職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体的状態が変化があったとしても、法人内に様々な施設があり、本人の状況に応じたケアが提供できるように連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に病院受診や往診を活用して身体状況の把握、管理を行っている。訪問リハビリの活用、身体のサポートをすることで安心して生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の生活より本人の状態を観察、把握することで異常の早期発見に努めている。かかりつけ医とは、細かいことでも報告を行っており関係性は良好。家族の希望も大切にし治療が意に添うように受けられるように支援している。	母体の総合病院が隣接しているため、内科以外の科も素早い対応ができています。夜間時に体調が悪くなった方がいたが、迅速に対応でき、職員も安心できた。法人の訪問看護も利用でき、助言やアドバイスを頂いている。月2回、訪問リハビリもあり、挫傷時のタオルの当て方や体操の仕方を教えて頂いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しており、日々のケアの中で気づきや疑問が出た時には、法人内の訪問看護なので内線で相談をしたり、駆けつけて対応、指示をいただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内の病院では、MSWと情報の共有を行っており、現在の状態の確認や退院の目途など情報交換を行っており、お互い協力体制は整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族や医師と相談し状態に応じた施設サービスが受けられるように援助している。入居前や状況に応じて医療の意向確認を行っており、家族の希望があれば看取りまで行っている。	看取りは、状況により可能としている。入居時に、「入居中の治療に関する意向確認書」や「重度化した場合における対応の指針」にて説明し同意を得ている。状況の変化がなくても年1回確認をしている。終末期を迎えるにあたり、家族やドクターと相談した上で、病院か施設かの判断をして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応について、入社した時点でも指導を行っているが、定期的に勉強会を開催しておりマニュアルを作成し、法人内の勉強会に参加し知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と年1回の水害避難訓練を実施している。消防訓練では、他部署から応援が来てくれる体制を作っている。災害時のマニュアルもあり、職員全員に周知している。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、利用者も一緒に駐車場まで避難することができた。水消火器を使った訓練もできた。災害発生時には、隣接する特養に避難するようにしている。法人内で行っている訓練にも参加している。連絡網とハザードマップは事務所に掲示している。	災害対策について今一度、見直してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月両ユニットはチーム会を開催している。その際に、入居者に対するケア方法の見直しを行っている。また、抑制・虐待防止委員会が入居者の尊厳を守り、スピーチロックなど声掛けの拘束について定期的に勉強会を開催している。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。抑制・虐待委員会では、心身に余裕を持って頂きたいとの思いから施設の所々にかかるたの標語を貼っていて、意識を高めている。羞恥心に配慮して、入浴や排泄介助の際には、利用者の要望に合わせて同姓介助にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より、入居者とコミュニケーションを図っており、会話の中から思いをくみ取り、実現可能な希望なのか検討している。また、意思表示が表せない方には、個別に関わり思いをくみ取る形でサービスを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなタイムスケジュールはあるが、基本は本人の意思やペースに合わせて生活を送っている。入居者の意思を尊重したケアを提供しており、できるだけ入居者の要望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助時には必ず整容を行っており、月に2回は美容師が来荘しカットを行っている。それ以外にも、洋服が汚れていたら更衣をしたり、同じ服を何日も切ることがないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きから始まり、食事の盛り付けを入居者と一緒に行っている。以前までは、近くの食堂に行き食事を食べに行っていた。今後は、食事を楽しみにしていただけるように外食も計画していきたい。	朝は食材が届き施設で作り、昼と夜は隣接する施設の厨房から調理されたものが届く。おやつも厨房から届き、ゼリー、どら焼き、わらび餅の提供もあった。月1回行事食の日があり、12月は年越しそば、1月には、お節料理や七草がゆが提供される。いなり寿司やちらし寿司が利用者の人気メニューとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携業者の栄養士により栄養バランスを考えた食事を提供している。入居者一人一人の状態を把握して、水分摂取が少ない方には水分チェックを実施、食事量が少ない方には栄養補助食品を活用するなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い自力でできる方は自力で行ってもらい、職員は仕上げ磨き、口腔観察を行う。介助が必要な方には介助を行い口腔内の観察を行っている。口腔内の状態に応じてスポンジを使用する。また、口腔内に異常がある方に対しては訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように習慣づけている。その他、本人の意思があるときや表情や態度で誘導を行っている。また、排尿間隔をチェック、尿量に応じてパットの変更の検討を行っている。	排泄パターンを把握しているので、タイミング長く言葉掛けをすることで、失敗が減っている。コストを考えて、リハビリやオムツは極力使用しないように配慮している。基本ボクサーパンツを使用していて、ほとんどの方が布パンツで過ごせている。排泄失敗時には、さりげなく誘導して自尊心を傷つけないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の少ない方には特に、定時の水分補給以外にも水分をすすめ、毎日体操や個別のリハビリなど運動を行うことで排便が促せるようにしている。また、牛乳やヨーグルトを食べることで町内にも働きかけたり、ホットパックで温めたりと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽をまたぐことが難しい方にはリフト浴を使用したり、本人の身体状態に応じて入浴方法を検討している。入浴を好まない方に対しては、こまめな声掛けを行い無理のない範囲で入浴を促し対応している。	入浴は週2回の昼食後からで、リフト浴にも状況に応じて対応している。入浴時間は平均30分取っている。浴槽に入れない方へは、シャワー浴で対応している。冬至の日、職員がゆずも持ってきて、ゆず湯も楽しめている。入浴を拒否される方へは、「ちょっと手伝って」と言葉掛けをして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングで皆さんと過ごされていることが多いが、お昼寝の希望や居室に戻りたいときには意思を尊重して居室で過ごしてもらっている。夜間、なかなか眠れないときには、温かいお茶を飲んでいただいたり職員と一緒に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のカルテには、内服している薬品カードを閉じており効能、副作用など把握できるようにしている。職員が内服薬を管理しており、入居者には飲みやすいように袋を切り手渡しをしたり介助を行っている。また、誤薬防止として配薬時にはダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動や行事で作成された作品(塗り絵、工作)など、自室前に展示をしている。本人の生活歴を確認し趣味が生かせるような活動を提供したり、集団での活動(お菓子作り)などみんなで楽しみながら気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を制限していたが、5類になったことで外出支援を再開するよう段取りを行っている。コロナ前は、本人が自宅に行きたいと要望があれば、ご家族様に協力を得ながら支援していた。また、散歩に行きたい要望があれば職員と散歩にも出かけている。	近隣の散歩やウッドデッキに出て外気浴をしている。天気の良い日には、アフタヌーンティーを堪能している。毎朝、リハビリ体操を欠かさず行ない筋力低下を防いでいる。月刊情報雑誌の風景写真を見ながら、外出した気分が味わえている。	コロナ終焉に向けて、外出計画を立ててみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により金銭管理が難しい方が多く、ご家族様に管理をしていただいている。本人に必要な物品などあればご家族に依頼、職員が立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があればご家族にかけている。友人やご家族様からの電話も取り次いでいる。文字を書くという行為が難しく手紙でのやり取りはないが、毎月ご家族様へ「毎月の様子」を職員が作成しご家族様に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が過ごしやすいように環境整備を行っている。空調管理や室温調整は季節に応じて適正な温度が保てるように調整している。また、季節にあった塗り絵やちぎり絵など飾ることで季節感を出している。	各棟のリビングはオレンジとグリーン色にできるだけ統一した家具を設置している。職員の言葉掛けにより、リビングで過ごすように配慮している。うたた寝している利用者もいて居心地の良さが窺えた。新聞や雑誌を1日中読んだり、上手に塗り絵をしている方もいた。ほぼ毎日、職員と一緒に作品作りを手伝っている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望があれば自室で過ごす時間も設けており、仲が良い入居者同士会話をして過ごしている。環境面でもリビングにBGMを流したり、ソファやテーブルの配置を変更したり入居者の状態にあわせて環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使われていた馴染みのタンスなどもちこんでもらったり、本人が作成した習字など居室に飾ることで本人が過ごしやすい環境になるように工夫している。	ベッド、寝具、カーテン、エアコンが備え付け。転倒リスクがある方へは、ベッドの配置を工夫している。携帯電話で娘さんと電話をしたり、塗り絵をしたりして過ごしている。カラオケ大会に向けて、歌の練習をしている方もいる。家族の写真や職員からプレゼントされた色紙が大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、転倒リスクが軽減できている。安全に生活が送れるように環境整備を行っており、本人の意欲が持てるような声掛けを行い、できることは自力で行うように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない